

令和7年度 高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 令和8年3月18日（水）午後3時00分～4時05分

II 場所 高岡市役所3階 庁議室

III 出席者 高岡市長 出町 譲
高岡市教育委員会
教育長 近藤 智久
教育委員 長尾 順子
教育委員 藤重 歩
教育委員 永岩 聡

事務局関係

総務部

総務課長 津幡 佳成

総務課副課長 野口 広大

教育委員会事務局

教育次長 村上 彰

教育次長・学校教育課長 津田 久

教育総務課長 芹山 奈緒樹

生涯学習・スポーツ課長 高山 篤志

文化財保護活用課長 釣 和洋

教育総務課副課長 野吾 達也

学校教育課副課長 小山 美千代

IV 傍聴者 4名

V 協議の概要

1 開会

・市長あいさつ

2 項目

(1) 学校教育改革について

(2) 高岡市教育大綱の策定について

(3) 伏木中学校区統合小学校の校名について

(4) 学校跡地活用の進捗状況について

○発言要旨

(1) 学校教育改革について

【長尾委員】

- ・「探究的な学び」については、これまでもあった学習ではあるが、現在、取り組もうとする背景には危機感が伴うからだと考える。
- ・生成AIが出てきて、これからの世の中をたくましく生きていくためにどんな力を持つてばいいのか。今までは正解を求める学びであったが、「なぜ」から出発して、答えがない学びを一緒に歩まない、求める人材、生きる力が身につかないと考える。
- ・探究的な学びの推進について、課題は2つある。
- ・1つは、総合的な学習が年間70時間ある中で、そのうち10数時間をものづくりデザイン科に費やしている。探究的な学びには多くの時間を要するが、その時間をどのように確保するのか。
- ・もう1つは、若い先生が増えており、昔に比べてたくさんの方を教えなければならず、教科書をこなすだけで精一杯の先生もたくさんいる。さらに、探究的な学びに取り組むことは大きな負担になると思うので、そのサポートをどうすべきか。
- ・ただ取り組むことで、授業をする醍醐味、生徒と面白く進める学び、なにより自分で授業を組み立てることにより、教員としての資質は向上すると考える。
- ・先日中学校に訪問した際、小中一貫教育の効果が出てきていると感じた。中学校の先生方の指導案、授業の工夫がされていると感じた。
- ・先生1人ではなく、学校全体で、学校だけでなく地域で、さらに中学校とも絡み合っていて、探究的な学びが進められれば良いと考える。

【市長】

- ・生成AIをはじめとする様々な課題が出てきている中で、今やらなければならない取組だと感じている。
- ・委員が指摘する課題もそのとおりである。

【藤重委員】

- ・高岡市独自の取組としてもものづくりデザイン科があり、これは従事する方の関わり方や、ものづくりが盛んな高岡への誇り、愛着を育むという総合学習である。
- ・また、中学校では論理コミュニケーション授業を通じ、身の回りの課題を取り上げて、論述力を育てている。こうした高岡らしいノウハウ、実績を軸に高岡らしい探究的な学びをぜひ展開してほしい。
- ・サポート体制としては、地域の関わりが重要。例えば、高岡には伝統工芸や地場産業、また高岡工芸高校や富山大学の芸術文化学部があることを踏まえ、アカデミー的な形でバックアップする体制をつくれなかと考える。
- ・探究的な学びの中では、アイデア出しなど、専門家の視点が大事である。地域をあげて、高岡らしい探究的な学びの場をつくるというバックアップの取組も大事であると考え。
- ・モデル校を指定して研究に取り組むことも大事だが、いわゆる優等生的な、見栄えの

いい探究的な活動ではなく、自由な発想で、ハードルを低くした形が、特に小学生には大事だと考える。地域がアドバイザー的な役割で子どもたちをサポートしてほしい。

【市長】

- ・地域がどう関わっていけるかということは、とても大事な視点である。

【永岩委員】

- ・今回の学校教育改革の3つの内容はとても重要なことであり、進めてほしい。
- ・この3つのほかにも、まだまだ課題はある。ぜひ来年の会議でも、更なる学校教育改革に関する事項を取り上げていただきたい。

【成瀬委員】

- ・これまでは点数主義で、いい高校、大学に行くことが、小学校や中学校で重視されてきたが、そういう世の中ではなくなってきた。
- ・中田中学校から（相撲の）行司になった方がいる。例えば、そのような方を授業に呼べば、子どもたちも違うところに興味が出てくるのではないか。
- ・今まで学校運営に関して、私たちは学校に任せていた。運営の一部に参加するため、PTA や児童クラブなどがある。これらがコミュニティ・スクールという形で一体になることで、学校や親が子どもを育てると考えられていたものが、地域で育て、考えることに変わり、そう進めていくことが大切だと考える。
- ・不登校対策について、本当に困っている方は声をあげられない。おそらく、教育総合支援センターに相談はこないのではないか。
- ・引きこもり対策の先進事例として、秋田県藤里町の「藤里方式」がある。ここは人口約4,000人で、そのうち引きこもりの方が113人いる。
- ・この町では、社会福祉協議会の方が1件1件あたって、なんとかして社会に出そうとしている。最初は人が集まる場をつくり、次は仕事などの役割を担う場をつくり、現在、藤里町は引きこもりを克服しつつある。
- ・フリースクールに通えている子どもはほんの一部で、ほとんどの子が部屋から出られない。学校に居場所がないから家にこもる。日中は誰かに会うから寝て、夜起きて活動する昼夜逆転の生活。家の中に居場所がないと部屋に閉じこもり、誰にも相談できなくなる。特に親には相談できない。
- ・そのようなことに対してひとつずつ対応するような施設であってほしい。
- ・いじめについて、「いじめはダメ」では通用しないので、その子に愛情を注ぐ施設になってほしいと考える。

【市長】

- ・教育総合支援センターについては、箱だけでなく、自宅に行って相談する取組も予算化している。
- ・探究的な学びについて、富山と比べると高岡は弱いと思っている。富山と高岡の高校における探究の倍率には差があり、まだ点数主義が色濃く残っていると考える。
- ・一方、社会を見るとガラリと変わっている。高校はもとより、小学校や中学校から探究的な学びに取り組んでいる。この大きな時代の流れに乗るべきと強く思う。

【教育長】

- ・ご意見を踏まえ、教育委員会としては、探究的な学びを推進するためのサポート体制をしっかりとやっていかなければと思っている。
- ・課題づくりの仕掛けが肝である。「探究的な学び」を推進するにあたり校長会から推薦された小・中学校の教員、また担当指導主事から成る推進委員会において意見を交わしながら、各学校に提供できるような情報を発信していきたい。
- ・教育総合支援センターについては、運営しながら、課題も見えてくるかと思うが、高岡はあったかい、一人一人に目配りしているという評価をいただけるような施設にしたい。

【長尾委員】

- ・不登校の人数が1年間で30人増えた。また、特別支援の学級も増えた。不登校については、学校へ戻すことが目的ではなく、自分で生きる道を見出すことが大切である。
- ・引きこもらないうちに、かけこみ寺のような役割となり、専門家によるケアを行っていただきたい。
- ・能力に偏りがあり、生きづらさを感じている子どもが不登校に陥るケースが多いので、WISC（ウィスク）検査や専門的な知識で、その子に合った教育の仕方を模索するシステムを構築できたらと思う。

(2) 高岡市教育大綱の策定について

【藤重委員】

- ・大切なのは、教育大綱を誰に向けて発信していきたいかということである。
- ・内容についても、もう少し要点だけ絞る、視覚的に訴える、動画を活用するなど、工夫して発信してはどうか。例えばQRコードを貼り付けるなど、気軽に読んでもらえるようPRできたらいい。

【永岩委員】

- ・教育大綱はとても大きな話なので、市民全員が知っていてもいいことである。
- ・要約版を作成し、興味がある方は、QRコードで全体版につながるなど、広報活動をもっと行っていくべきである。

【長尾委員】

- ・今の時代の流れは早すぎて追いつけない。そのため幹だけはしっかり持ち、できるだけシンプルでわかりやすく、総合計画も重点施策も同じ言葉でいいと思う。枝葉の部分は毎年変更をかけていけばよく、変わらないものを持つことが大切である。
- ・重点施策に予算額が記載されている点はすごい。教育とひとづくりに予算をかけるという宣言になっており、この点は変える必要はないと考える。

【教育長】

- ・教育大綱の内容をどう周知していくか、その仕掛けが大事。他自治体を参考するなど、デザイン等も工夫して、伝わりやすい、いいものにしたい。

(3) 伏木中学校区統合小学校の校名について

【藤重委員】

- ・地元の思い、意見を踏まえた結果でいいと思う。

【教育長】

- ・校名が概ね決定し、今後、校章や校歌をどう作っていくか開設準備会で検討を進めているところ。
- ・統合小学校の教育活動の内容についても、ご意見をいただいているので、保護者の皆様と学校ですり合わせをしながら、令和10年4月の開校に向けて準備を整えていきたいと考えている。

【市長】

- ・伏木は震災があり、復興のシンボルになるような学校になればと思う。引き続き開校に向けてよろしく願いたい。

(4) 学校跡地活用の進捗状況について

【藤重委員】

- ・学校跡地については、リノベーションして活用できる場所にした方がいいのか、一旦更地にして異なる機能を持ってきた方がいいのか、一度試算を行ったうえで市民の方に意見を聞くことが大事だと考える。
- ・市民の方は跡地になんらかの拠点施設が整備されるのが良いと思うが、現状はどちらがいいのか、財政的な視点も含めて検討し、失われた機能の代替施設として市民の方に提案することも重要である。跡地となれば感情面の話も出てくると思うが、数字的な根拠を示すことで冷静な議論を行うことができる。
- ・この点は、教育分野だけでなく、高岡市のまちづくりにも密接に絡んでくる。

【市長】

- ・国の有利な起債を活用するには、建物を解体しなければならない。
- ・また、建物を残してほしいという意見はあるが、いつまで管理することができるかという課題もある。

【永岩委員】

- ・市で跡地全部の対応をやらなくても、もっと民間活用を図っていけばいいのでは。

【教育長】

- ・一番の基本は民間活用を図ることとし、教育委員会では、これまでも各部局と情報共有をしている。民間活用の話がきた際には、地域に説明し、理解を得ながら進めていきたいと考えている。
- ・市として行政課題に対応しながらも、既存のものを最小限の整備で活用していこうと進めている。

- ・古府小学校への武道館機能整備の件については、決して新しい箱を整備するのではなく、一部を改修して活用することで、市全体の受け皿として、子どもたちを中心とした活動を支えることができないかと考えている。

3 その他

【藤重委員】

- ・部活動の地域移行が進み、競技や活動がクラブ化しているなか、送迎問題で活動を諦める保護者も出てきている。
- ・送迎は、公共交通と密接な関係にある。例えば、放課後に各中学校区と駅を循環する交通手段を確保する、もしくは公共交通の利用者への支援など検討してはどうか。
- ・送迎を必要としない活動として、地域で活動できるまちづくり部やボランティア部などのクラブ活動があれば、地域と連携し、探究的な学びとも連動するような活動にもなるのではないかと考えている。

【教育長】

- ・休日の地域展開は進めてきているが、平日の活動で、また少子化で部員数の確保が難しい中で、学校現場では放課後の活動のあり方を模索しているところ。
- ・来年度以降は、学校ごとに新しいスタイルの活動、例えば総合的なスポーツ活動、レクリエーション、文化芸能活動などが出てくるのではないかと考えている。
- ・各学校の状況にもよるが、状況が整ってくれば、地域の関係団体への働きかけなどにバックアップできるものと考えている。

【市長】

- ・クラブチームでの活動が増えるなか、送迎については、確かに大変な課題である。何ができるか、知恵を絞って検討していきたい。